

<校訓>
高志共生

大庄中通信

大庄中学校
H25年度第9号
(H25.7.17・水)

データを参考にした 進路の情報

市内全体	18年度卒	19年度卒	20年度卒	21年度卒	22年度卒	23年度卒	24年度卒
公立全日制高校進学率	67.5%	66.0%	65.8%	65.9%	67.1%	64.8%	65.7%
私立全日制高校進学率	16.9%	17.9%	17.9%	17.3%	17.0%	17.6%	18.0%
全日制高校進学率	84.4%	83.9%	83.7%	83.2%	84.1%	82.4%	83.7%
定時制高校進学率	6.1%	7.2%	7.0%	7.9%	7.2%	7.3%	8.0%
通信制高校進学率	2.8%	2.3%	3.1%	3.8%	4.0%	4.8%	3.5%
高校進学率	93.3%	93.4%	93.8%	94.9%	95.3%	94.5%	95.2%

上の表は最近7年間の尼崎市市内全体の高校進学率を公立・私立・全日制・定時制・通信制の別に示したものです。年度により多少の上下はありますが、公立高校への進学率は平均すると約66%、私立と定時制と通信制を合わせた高校進学率は約95%ということがわかります。定時制と通信制への進学者が少しずつ増えています。では、大庄中はどうでしょう？

大庄中	18年度卒	19年度卒	20年度卒	21年度卒	22年度卒	23年度卒	24年度卒
公立全日制高校進学率	61.5%	67.3%	76.4%	56.8%	73.2%	58.1%	60.3%
私立全日制高校進学率	20.3%	14.3%	13.6%	24.6%	15.0%	22.5%	21.3%
全日制高校進学率	81.8%	81.6%	90.0%	81.4%	88.2%	80.6%	81.6%
定時制高校進学率	5.6%	7.5%	4.3%	5.1%	5.9%	10.6%	10.6%
通信制高校進学率	3.5%	2.0%	2.9%	4.2%	4.6%	4.4%	5.7%
高校進学率	90.9%	91.2%	97.1%	90.7%	98.7%	95.6%	97.9%

大庄中の方がパーセンテージの高いところを太字にしてみました。市内全体より年度による上下が大きいですね。ここ2年間は、高校進学率は市内より高いのですが、公立進学率や全日制進学率は市内より低くなっています。定時制と通信制への進学者が市内と同じように少しずつ増えているのは、全日制に進学できなかったが、高校には進みたいという人が増えているからかもしれません。

20年度と22年度のように、公立への進学率が高い年度は、全日制高校の進学率と高校進学率も市内平均より高くなっています。

今年の3年生はどうなる？

6月に、尼崎市中学校3年生学力調査がありました。この結果から、来年の3月入試を予想してみます。

まず、大庄中全体の平均点は、市内平均に少しだけ足りません。「市内平均に何点足りない」とか「大庄中平均は市内平均の何%」とかは、市内平均を公表してはいけないうことになっていますので、残念ながらお知らせできません。市内平均を上回っている人が70～75人の間とだけお知らせしておきたいと思えます（本校3年生の人数は158人）。

大庄中で市内全体の66%以内（公立への進学率）にいるのは、約85人です。つまり、この学力調査だけの見通しですが、本校でそれより下の順位の人、今のところ公立合格圏外ということになります。しかし、公立一般入試は、内申と当日のテストで合格判定が行われますし、入試にはボーダーラインがありますから、上から85人が全員合格できるというわけではありません。

また、市内全体で約66%の公立進学率というのは、2月の推薦入試や特色選抜入試の合格者が含まれていますし、市外の公立高校

への進学者も含まれています。3月入試は複数選抜ですから、高校ごとの合格最低点もかなりの差があります。内申点を換算して、500点満点にすれば、違った結果になりますし、内申点もテストの点数も2学期と3学期の学習次第で変わってきます（良くも悪くもですが…）。ですから、「校内で上から約65%にいたら公立に合格する」という安易な考えはもたないようにお願いします。

内申点は、公立の一般入試では、1段階上がれば7.5点（実技教科）か4点（5教科）上がります。内申点の合格判定に占める比重の大きさがわかっていたらいいのでしょうか？

公立高校の複数選抜校を目標にしている人で、今の成績ではむつかしい…という人は、夏休みからの心機一転・努力に期待したいと思います。公立の推薦入試や特色選抜入試、あるいは公立の滑り止めでないレベルの私学などを志望している人は、より高い目標を持って学習に励んでくれることを望んでいます。

今の2年生と1年生は大丈夫かな？

さて、今の2年生が高校を受検する27年度入試から、公立高校の学区が再編（拡大）されます。

これは、県教委の「生徒それぞれの個性を生かし、自分に合った高校を選択できるように多様な選択肢を確保する」という観点から新たに導入される制度です。

これまでは、尼崎の生徒は、全日制の普通科（学年制と単位制）では、市内の7校しか受検できませんでしたが、西宮・伊丹・川西・猪名川・宝塚・三田・丹波・篠山にある高校も受検できるようになりますので、30校の普通科（学年制27校、単位制3校）と4校の総合学科が受検可能になります。選択肢がものすごく増えることになります。

県教委や市教委も、新通学区域中高連絡会、新通学区域進路担当者会、合同説明会の開催、ホームページの立ち上げなど、いろいろな準備を進めています。実際に、尼崎の生徒がどれくらい他市の高校を志望するか、他市の生徒が尼崎の高校をどれくらい志望するのかは、ふたを開けてみなければわかりません。

交通の便がいい尼崎の高校に、他市の生徒がたくさん受検するのではないかと、という予想があります。隣接する市に近い位置にある高校に他市の生徒の受検者が増えるのは当然のことでしょう。尼崎西は西宮に近い、武庫荘総合は西宮にも伊丹にも近い、市尼崎・尼崎北・稲園・双星は伊丹に近い、稲園はJRを使えば宝塚や川西からも便利…、おそらく、尼崎市内の高校の他市からの受検者は増加するでしょう。

ということは、過去の公立入試の県平均や尼崎平均を比較したデータから推測しますと、尼崎市内の高校の合格最低点は、かなり高くなります。複数選抜なら合格できた成績の人が、27年度入試からは合格できない、といったことが起こると思います。

それなのに、相変わらずのんびりとした今の2年生と1年生の学習に取り組む姿勢を見ていると、とても不安に思います。日々の積み重ねが大切です。



（文責：校長 福井 隆夫）